

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について【概要】

福岡県教育庁教育振興部義務教育課

■ 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

■ 2 実施主体及び参加主体

- 実施主体：国
- 参加主体：学校の設置管理者である都道府県教育委員会、市町村（学校組合）教育委員会、学校法人、国立大学法人等

■ 3 調査対象・内容、調査期日及び調査方式

- 調査対象・内容
 - ア 小学校調査
小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
・国語、算数及び児童質問紙調査
 - イ 中学校調査
中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年
・国語、数学及び生徒質問紙調査
- ※ 学校質問紙調査（校長が回答）を併せて実施
- 調査期日 令和3年5月27日（木）
- 調査方式 悉皆方式

■ 4 調査実施学校・児童生徒数

小学校	学校数(校)	児童数(人)	
		国語	算数
福岡県(公立)	723	43,473	43,483
全国(公立)	18,857	993,975	994,101

中学校	学校数(校)	生徒数(人)	
		国語	数学
福岡県(公立)	340	39,098	39,096
全国(公立)	9,320	903,157	903,253

※ 学校数は、国・私立を除く。※福岡県（公立）には、指定都市を含む。

■ 5 調査の結果

(1) 平均正答数・平均正答率・標準化得点

		小学校(公立)			中学校(公立)		
		平均正答数/出題数	平均正答率	標準化得点	平均正答数/出題数	平均正答率	標準化得点
国語	福岡県	9.2 / 14	66	101.1	9.1 / 14	65	101.1
	全国	9.1 / 14	65	(100.0)	9.0 / 14	65	(100.0)
算数 数学	福岡県	11.3 / 16	70	100.9	9.3 / 16	58	102.2
	全国	11.2 / 16	70	(100.0)	9.1 / 16	57	(100.0)

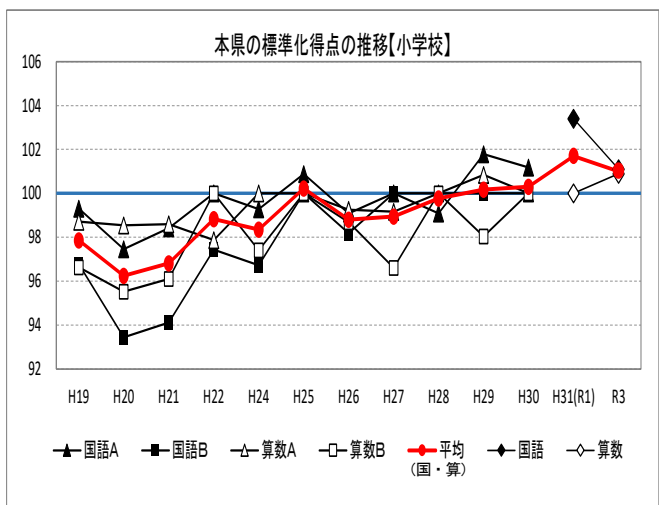
※ 標準化得点とは、全国の平均正答数を100としたときの本県の平均得点のこと。

※ 平成31(令和元)年度より、「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更。

(2) 本県の標準化得点の推移

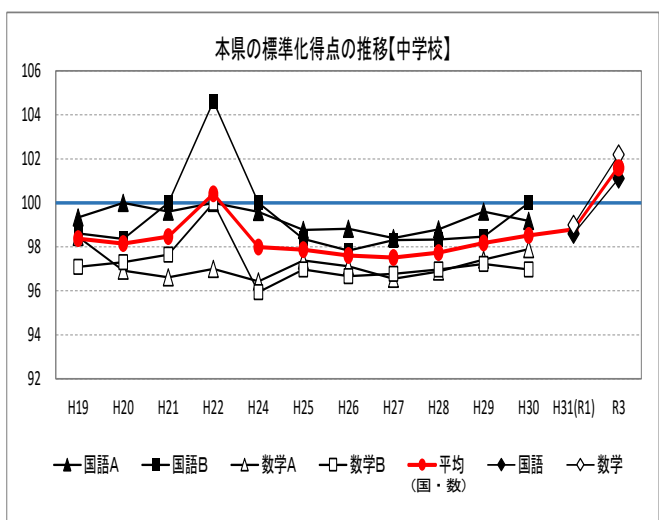
【小学校】

	国語A	国語B	算数A	算数B	平均
H19	99.3	96.8	98.7	96.6	97.9
H20	97.5	93.4	98.5	95.5	96.2
H21	98.4	94.1	98.6	96.1	96.8
H22	100.0	97.4	97.9	100.0	98.8
H24	99.3	96.7	100.0	97.4	98.4
H25	100.9	100.0	100.0	100.0	100.2
H26	99.1	98.2	99.2	98.7	98.8
H27	100.0	100.0	99.2	96.6	99.0
H28	99.1	100.0	100.0	100.0	99.8
H29	101.8	100.0	100.8	98.0	100.2
H30	101.2	100.0	100.0	100.0	100.3
	国語		算数		平均
H31(R1)	103.4		100.0		101.7
R2					未実施
R3	101.1		100.9		101.0



【中学校】

	国語A	国語B	数学A	数学B	平均
H19	99.3	98.6	98.5	97.1	98.4
H20	100.0	98.4	96.9	97.3	98.2
H21	99.6	100.0	96.6	97.6	98.5
H22	100.0	104.6	97.0	100.0	100.4
H24	99.6	100.0	96.4	95.9	98.0
H25	98.8	98.4	97.4	97.0	97.9
H26	98.8	97.8	97.1	96.7	97.6
H27	98.4	98.3	96.6	96.8	97.5
H28	98.8	98.3	96.9	97.0	97.8
H29	99.6	98.5	97.4	97.2	98.2
H30	99.2	100.0	97.9	97.0	98.5
	国語		数学		平均
H31(R1)	98.6		99.0		98.8
R2					未実施
R3	101.1		102.2		101.7



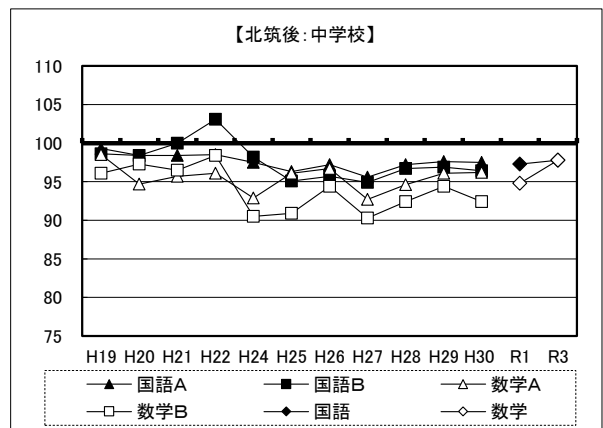
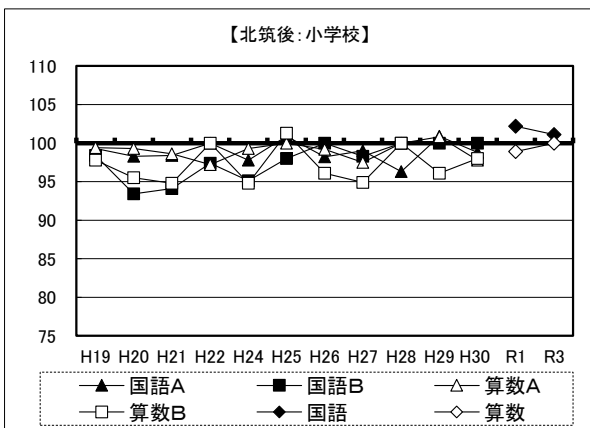
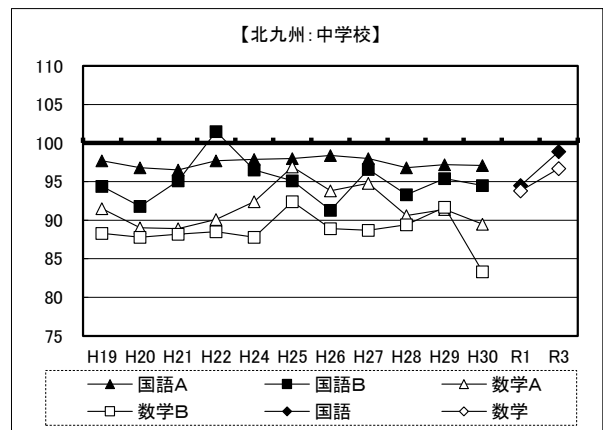
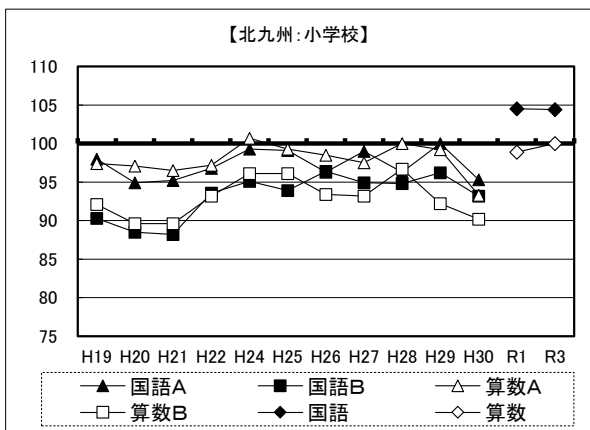
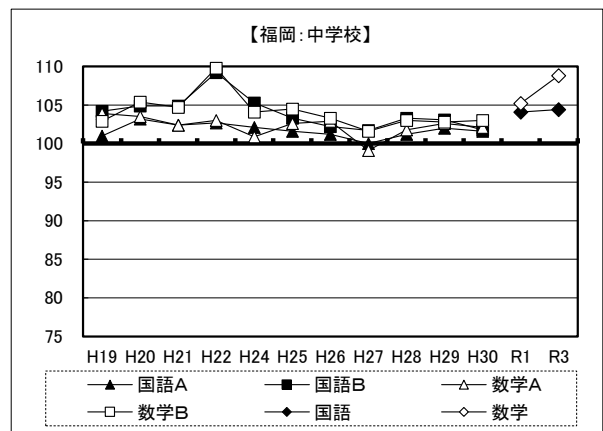
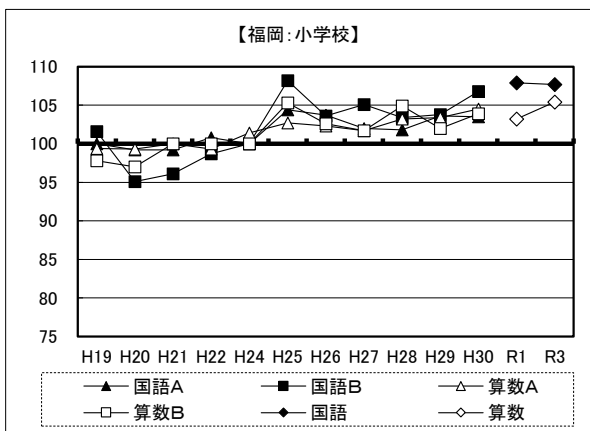
- 小学校では、国語と算数の2教科の平均は、4回連続で全国平均より高い。
- 中学校では、国語と数学の2教科の平均は、5回連続で上昇傾向が続いており、今年度は、調査開始以降最高値となった。
- 小・中学校の全教科区分で、調査開始以来初めて、全国平均より高い結果となった。

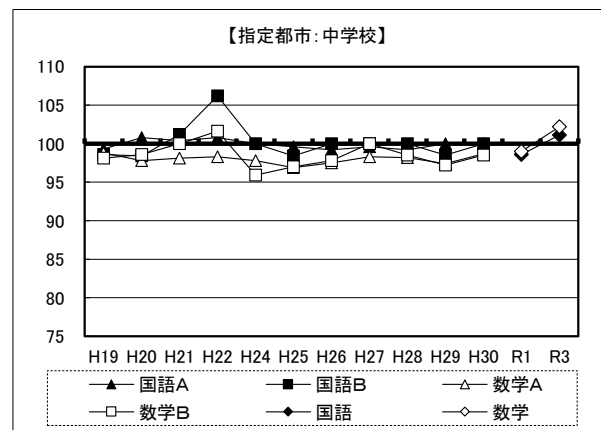
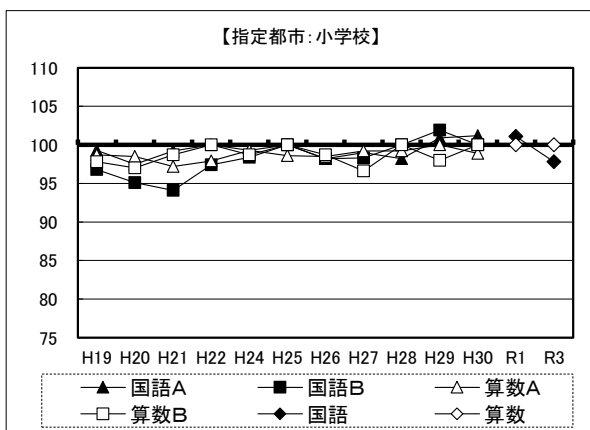
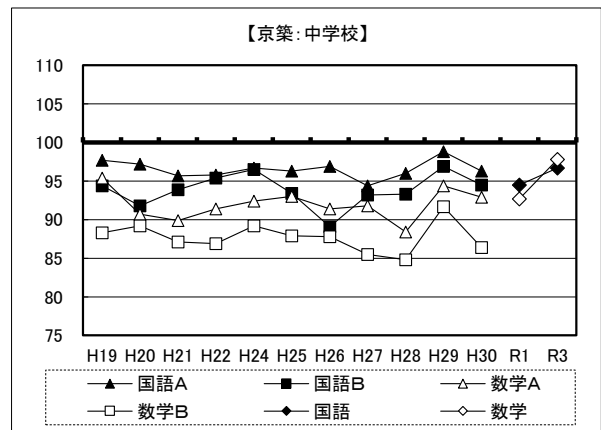
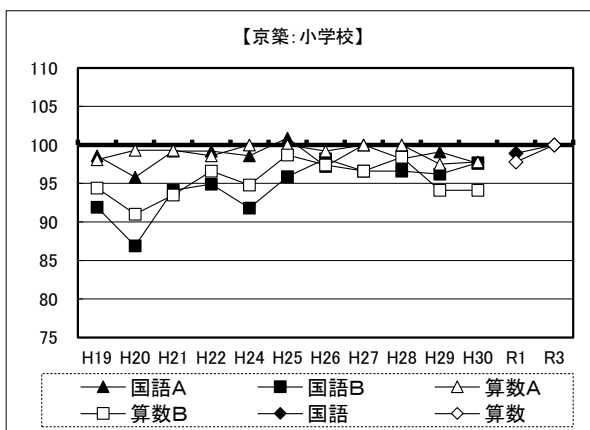
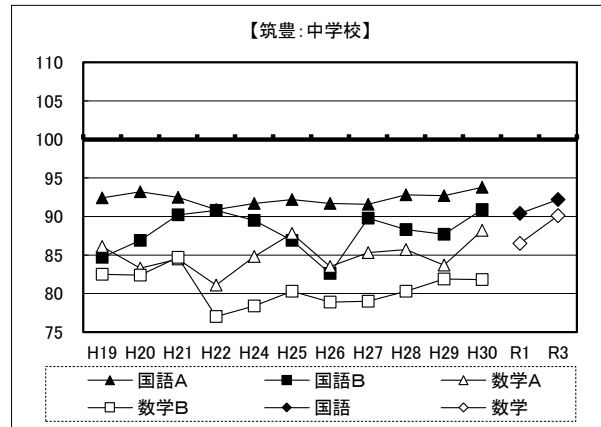
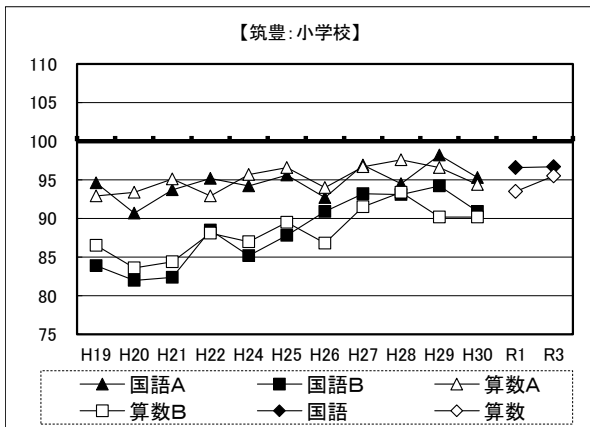
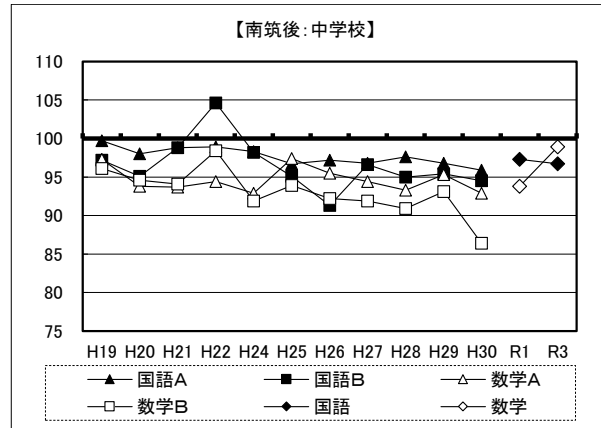
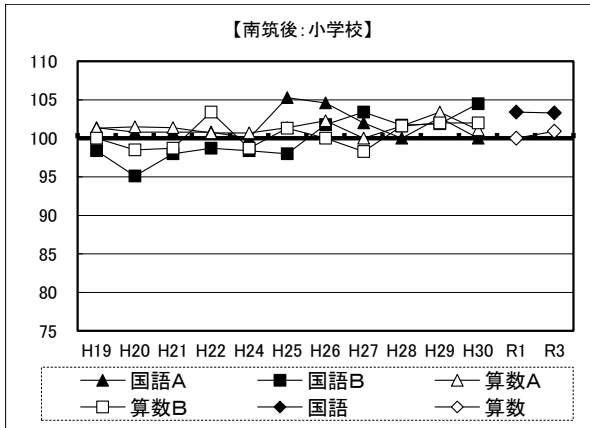
(3) 地区別の状況

ア 標準化得点

		小学校		中学校	
		国語	算数	国語	数学
福岡県		101.1	100.9	101.1	102.2
県内各地区	福岡地区	107.7	105.4	104.4	108.8
	北九州地区	104.4	100.0	98.9	96.7
	北筑後地区	101.1	100.0	97.8	97.8
	南筑後地区	103.3	100.9	96.7	98.9
	筑豊地区	96.7	95.5	92.2	90.1
	京築地区	100.0	100.0	96.7	97.8
	指定都市	97.8	100.0	101.1	102.2
全国		100.0	100.0	100.0	100.0

イ 標準化得点の推移





○ 小学校において、国語は、5つの地区（福岡・北九州・北筑後・南筑後・京築）が全国平均以上になるとともに、算数は、全ての地区において前回の結果以上となった。
また、中学校において、国語は、6つの地区（福岡・北九州・北筑後・筑豊・京築・指定都市）が前回より向上し、数学は、全ての地区において前回より向上した。

(4) 本県における各教科の成果と課題等

□…全国平均を上回っている内容

[] 内の記号は、問題番号

◇…全国的にも、本県においても成果がみられた（正答率が70%以上）内容

◆…全国的にも、本県においても課題がある（正答率が70%未満）内容

小学校

<国語>

- ◇「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」ことに成果がみられた。〔1〕一〕
- ◇「資料を用いた目的を理解する」ことに成果がみられた。〔1〕二〕
 - ◆「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける」ことに課題がある。〔2〕三〕
 - ◆「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」ことに課題がある。〔2〕四〕
 - ◆「文の中における修飾と被修飾との関係を捉える」ことに課題がある。〔3〕三（2）オ〕

<算数>

- ◇「速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる」ことに成果がみられた。〔1〕（5）〕
- ◇「集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる」ことに成果がみられた。〔3〕（5）〕
 - ◆「複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる」ことに課題がある。〔2〕（3）〕
 - ◆「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる」ことに課題がある。〔3〕（4）〕
- ◆「小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる」ことに課題がある。〔4〕（3）〕

中学校

<国語>

- ◇「質問の意図を捉える」ことに成果がみられた。〔1〕二〕
- ◇「書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える」ことに成果がみられた。〔2〕二〕
 - ◆「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」ことに課題がある。〔2〕一〕
- ◆「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」ことに課題がある。〔3〕四〕
 - ◆「相手や場に応じて敬語を適切に使う」ことに課題がある。〔4〕三〕

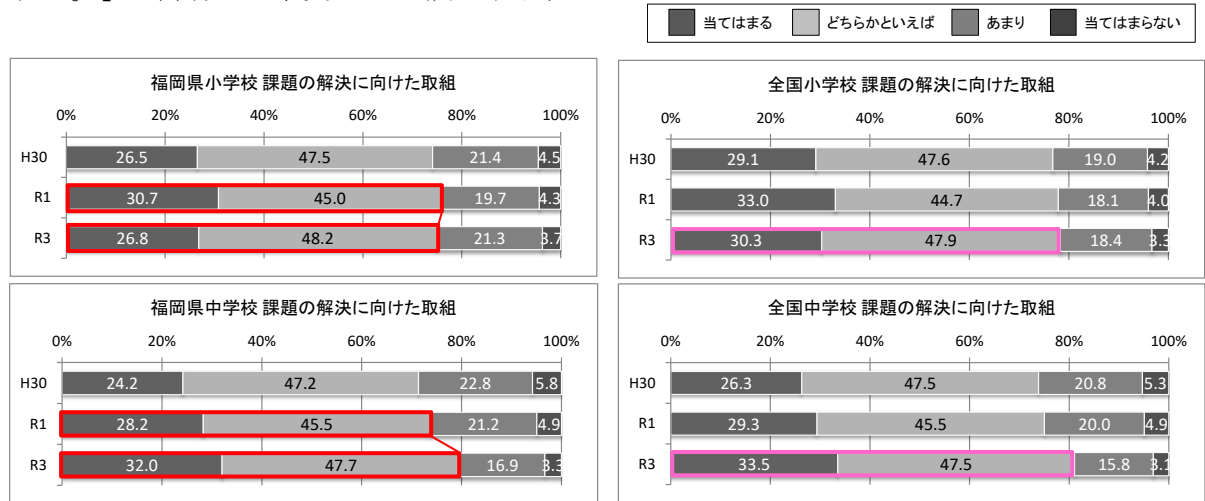
<数学>

- ◇「整式の加法と減法の計算ができる」ことに成果がみられた。〔1〕
- ◇「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」ことに成果がみられた。〔6〕（1）〕
- ◆「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」ことに課題がある。〔7〕（2）〕
- ◆「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」ことに課題がある。〔8〕（3）〕
 - ◆「ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる」ことに課題がある。〔9〕（3）〕

(5) 質問紙調査の状況

ア 課題の解決に向けた取組（児童生徒質問紙）

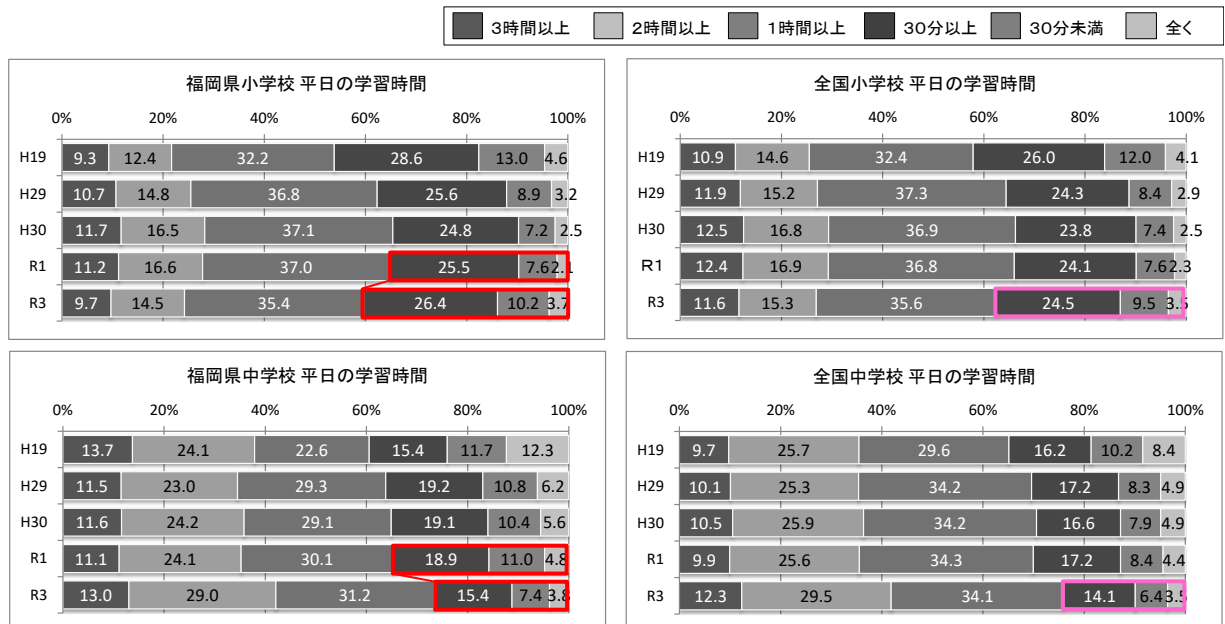
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」（平成 30 年度からの調査項目）



- 肯定的な回答（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」）をした児童生徒の割合は、前回と比較すると、小学校は0.7ポイント減少、中学校は6.0ポイント増加している。全国と比較すると、本年度は、小学校で3.2ポイント、中学校で1.3ポイント下回っている。

イ 家庭での学習習慣の定着（児童生徒質問紙）

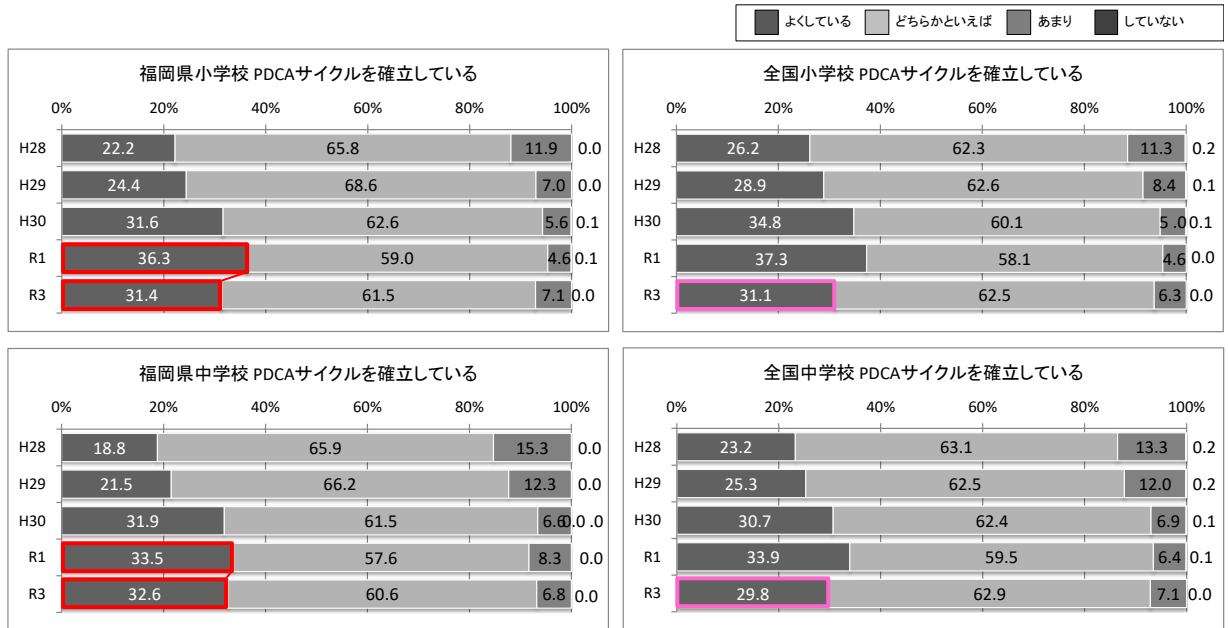
「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）（平成 19 年度からの調査項目）



- 1時間未満の児童生徒の割合は、前回と比較して、小学校は5.1ポイント増加、中学校は8.1ポイント減少している。全国と比較すると、本年度は、小学校で2.8ポイント、中学校で2.6ポイント上回っている。

ウ 学力向上に関する検証改善サイクルの確立（学校質問紙）

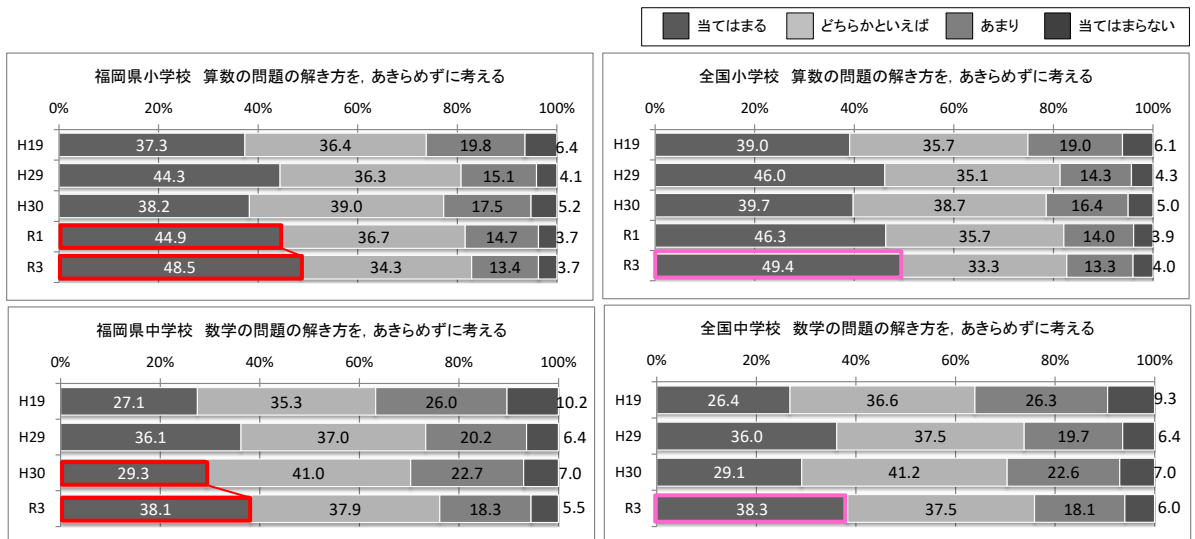
「児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。」
（平成28年度からの調査項目）



- 「よくしている」と回答した学校の割合は、前回と比較して、小学校は4.9ポイント、中学校は0.9ポイント減少している。全国と比較すると、本年度は、小学校で0.3ポイント、中学校で2.8ポイント上回っている。

エ 粘り強く取り組む態度（児童生徒質問紙）

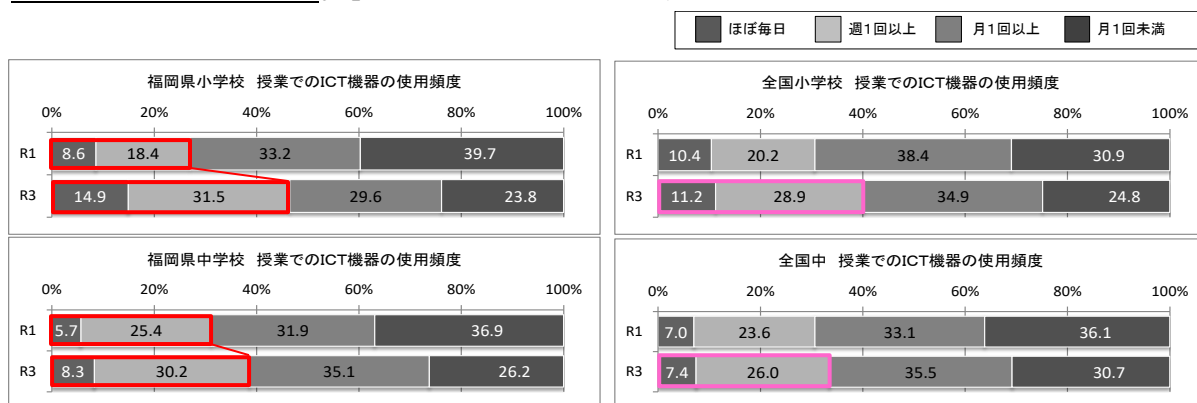
「算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。」（平成19年度からの調査項目）※中学校は令和元年度未実施



- 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、前回と比較して、小学校は3.6ポイント、中学校は8.8ポイント増加している。
- 全国と比較すると、本年度は、小学校で0.9ポイント、中学校で0.2ポイント下回っている。

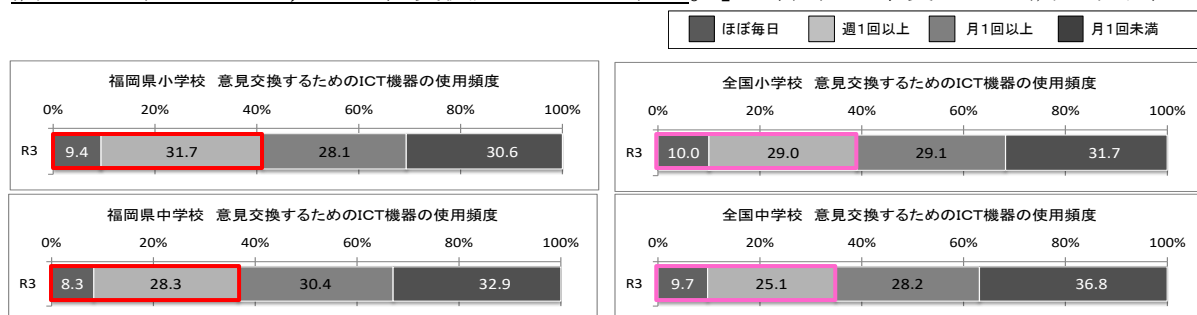
オ ICTを活用した学習状況（児童生徒質問紙）

「5年生（1，2年生）のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。」（令和元年度からの調査項目）



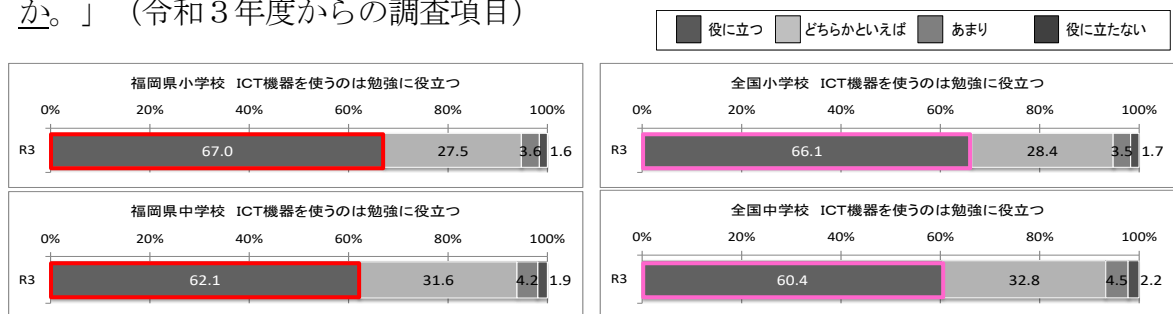
- 「ほぼ毎日」、「週1回以上」と回答した児童生徒の割合は、前回と比較して、小学校は19.4ポイント、中学校は7.4ポイント増加している。全国と比較すると、本年度は、小学校で6.3ポイント、中学校で5.1ポイント上回っている。

「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。」（令和3年度からの調査項目）



- 「ほぼ毎日」、「週1回以上」と回答した児童生徒の割合は、全国と比較すると、小学校で2.1ポイント、中学校で1.8ポイント上回っている。

「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。」（令和3年度からの調査項目）



- 「役に立つ」と回答した児童生徒の割合は、全国と比較すると、小学校で0.9ポイント、中学校で1.7ポイント上回っている。

■ 6 今後の予定

- 詳細な分析を基に報告書を作成し、市町村教育委員会及び全小中学校へ配布し、併せて、県教育委員会のホームページに掲載する。
- 市町村別結果の公表については、報告書の中で前回（令和元年度）同様の内容・方法で行う。